



上求菩提下化衆生

薪流会總裁 雪丸令敏

上求菩提下化衆生は、菩薩の行願であり、我々出家僧の職務でもあります。

「上求菩提」とは、自行門であり、己事究明といって、まず大いに回向返照して正念工夫を作し、人々

だれもが本来具有している処の一隻眼を以て自性を徹見し、衆生本來仏なることを自覺して、各々本身の家山あることを知ることであります。

この己事究明を徹底して、真正の見解を得て後はじめて、下化衆生と、実社会へ打って出るのが建前であります。この為には先ず、全ての先輩方が通つてこられたよう、然るべき僧堂に掛搭して修

行することが、一番近道ではないかと存じます。

そこには規矩あり参禅入室ありで、自然に修行が出来るよう、お膳立てが出来ていますので、人によつて多少の遅速はあつても自ら究明の道に至るようになつて居ります。

大事了畢するかしないかは、本人の願心次第だと存じます。釈尊が「一切衆生、皆如來の智慧徳相を具有す」と云つておられますように、我々がみな、釈迦や達磨に劣らぬ般若の智慧を具えているのです。ところが、如何せん、煩惱妄想という雲に覆われて、自ら曇らせているのであります。

古人も「雲晴れて後の光と思ふなよ もとより雲に有明の月」と

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町53 養德院内 横江 桃國	本部
〒509-0301 岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998 大雄寺内 大野 祥雲	発行
〒430-0838 静岡県浜松市南区鼠野町48 龍泉寺内 薬師寺 良晋	編集
薪流会ホームページ http://www.shinryukai.jp/	
印 刷	
〒505-0021 岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34 有限会社 永田印刷	

目 次	
「上求菩提下化衆生」	総裁 雪丸 令敏 : 1
研修会「煩惱とは何か」	講師 佐々木 閑 : 3
隨想「ことば考」	薬師寺 良晋 : 16
托鉢報告	: 15
決算報告	: 18
色紙案内・編集後記	: 20

歌われています。

されば一念発起して、この事を明めんと、大勇猛心を發して、努力精進すれば、たとい大地を打つて失すること有るも、見性は間違なきものと存じます。

釈迦何人ぞ、達磨何人ぞ、我また何人ぞ、彼が人なら我も人なりと、自己に鞭打ち、努力すれば必ず自由性を悟り、祖師方と同一境涯に到達することでしょう。

古人もこの事の為には、霜辛雪苦、法の為には喪身失命を避けずと、多年辛酸を嘗められ、大悟徹底されて居ります。

釈尊は明星を一見して悟入し、二祖は臂を断つて安心を得、香巖は擊竹の声を聞いて大悟し、靈雲は桃花を見して不疑の地に至り、又更に百丈は馬祖に一喝せられて耳聾し、臨濟は黄檗の三頓棒下に大悟して、大愚の肋下に築拳を解すなど、枚挙に暇が有りません。

この故に正受老人示衆に云く、「正念工夫の端的未だ悟入せざるものは、切に須らく真正の導師に見えて、願心を決定すべし。既に決定し去ることを得ば、十二時中、四威儀の間、正念工夫打失せざるを以て第一となす。見ずや、大慧曰く、那時か是れ打失する処、那時か是れ打失せざる処、是くの如く点検せよ、と。これは是れ従上諸聖正念工夫親切の様子、万古不易の正修なり。」

此の点において不肖自らを反省しまするに、誠に恥ずかしく、常にミイラ取りがミイラになつてゐる感があります。

これ上求菩提がしつかり出来ていない証拠と云うほかありません。

それ故に先ず大いに己事究明に励んで、真正の見解を本当に自己薬籠中のものにした後、はじめて



東海庵 中庭

は、また自ら上求菩提と引き上げねばなりません。

ただ、南船北馬、東西奔走と、衆生済度にのみ終始して、それに甘んじて、己事究明を疎かにしておつては、やがて刀も鋗び、鏡も曇り、悲力の菩薩が人を救わんとして却つて共に溺るという結果になります。

この衆生済度と同時に、日に新たに日々に新たに、己事究明怠りなく向上の一路に突き進み、自らの心田地を養い、境涯を練り上げていくべきではなかろうかと思ひます。

諸大徳は、大震災の救援活動や福祉のための托鉢等、身を以て下化衆生の活動をなされていると拝察する次第であります。

このように深心を以て普く一切の盡々刹々に報ぜんと、願心に鞭打つて、十字街頭に打つて出るわけであります。一旦、下化衆生と振り下ろした刀



教に救いを求める人の気持ちであります。

この世で生きて行くことが苦い
みの連続であるということを、し
みじみと感じ取った人が、初めて
仏教に耳を傾けるということにな
るわけです。

生まれ変わり死に変わりの無限の連鎖の原動力が、我々の心の中にある煩惱と呼ばれるものであります。この煩惱が作用しますと私たちの心の中にまた生まれ変わりを呼び起こす。

ている業を止めなければいけません。業を止めるためには煩悩を消す、仏教の目指す最終目標は煩悩の消除だということになります。

現代の私たちには、煩悩が消えることと輪廻するということ

とを繋げて考えられないかも知れないですけれども、煩惱を消すといふことによって、人生の苦しみがなくなるということになるわけです。

輪廻というのは、ただの生まれ変わりではありません。世の中の人は、屡々、「死んだお父ちゃん

して、再び業ができるという、こういうサイクルになつていてるわけです。

現代の私たちからすれば、輪廻や業なんか信じられないよと言われるかもせんけれども、少なくとも煩惱が私たちに生きる苦しみを与えているということは、

輪廻というのは、ただの生まれ変わりではありません。世の中の人は、屡々、「死んだお父ちゃんが天国で見守っていてくださる」とか仰いますけれども、死んで生まれ変わつて未だどこかにいる、というのは輪廻ではあります。

のが仏教なのです。

だから輪廻を信じるということは、地面の下に地獄があるということを本気で信じるということです。空に昇つていけば、そこに梵天や帝釈天といった神様がいると信じる人というのです。

この輪廻の原動力となつてゐる煩惱を消すにはどうしたらいい、煩惱の消し方を教えてくれる

二千五百年前であろうが、二十一世紀の科学の時代であろうが同じことなのです。

したがつて、仏教というのは輪廻を止める宗教であります。輪廻を止めるためにはどうするかといえば、その輪廻の原動力になつてゐる業を止めなければいけませ

「仏教のいう輪廻」というのは「六道輪廻」又は「五道輪廻」といつて、この世の中には、神様から地獄までのいろんな世界が実在していて、その世界の中で我々は、生まれ変わり死に変わりを続けていく、その全体の世界観のことを輪廻と呼ぶのです。

心・心所

も、真ん中に頭があつて、それに足が沢山付いているタコを想像していただきたい。海にいる蛸は八本足ですけれども、私たちの心の方は、四十本以上の足が付いているタコだと思つてください。

タコの頭が心です。タコの足が四十何本付いて、その足の先に一個ずつ豆電球が付いていると考ふてください。この豆電球は点いたり消えたりする。この豆電球の一つ一つが私たちの心の働きです。真ん中の心は、外から入ってくる刺激です。情報が映し出されるスクリーンのような働きをします。ここに眼があります。眼は外に

たの映画館のスクリーンであります。そのリンゴに対し、私たち
がそのリンゴを盗んでやろうと思つて手を伸ばすその働きとか、
リンゴに対する反応を起こすのは全部、四十何本付いている足の一つ一つの働きなのです。だからその足の中には、例えば執着という豆電球もあるし、嫌悪というものもある。嫌いなものを見れば嫌な思いが出てきて、それを排除したいと思うような気持ち、それも豆電球としてあるわけです。だから

映画館のスクリーンみたいなものです。例えばリンゴを見て、リンゴからの情報が眼を通して私の内側に入り、リンゴの画像が映し出されているのが心なのです。そのリンゴに対して、それが好きだとか、それを手に入れたいとか、リンゴに対しても働きかけるような、そういう心の作用は行わない。た

四十何個のいろんな種類の心の働く
きが、タコの足の中に付いている
わけで、その豆電球がついたり消
えたりする、これが心が働いてい
るということあります。

眼から情報が入つてくると、
そこに視覚が映ると言いました。
我々は認識器官をたくさん持つて
おります。『般若心経』に「眼、耳、
鼻、舌、身、意」とありますね。

うなたくさんの中電球の内の一
部が煩惱です。この煩惱の意味は何
かというと、我々が間違つたもの
の見方をして、それによつて業を
作つてしまふような、そういう悪
い行動を取らせるような心の働き

つ言つてゐるのです。眼、耳、鼻、舌、身。「身」は「からだ」という意味ではありません。これは触覚です。熱い、冷たいを感じる皮膚感覺のことを言つてゐる。これ

この煩惱の豆電球を全部潰してしまったとき、「煩惱が消えた」というのです。これを「涅槃」といいます。涅槃というのは、一度と生まれ変わらなくなる状態に達することです。

A medium shot of a man from the waist up. He has short, light-colored hair and a well-groomed, light-colored beard and mustache. He is wearing thin-framed glasses and a dark, vertically striped suit jacket over a white shirt and a red, white, and blue striped tie. To his right, a black video camera on a tripod is mounted, pointing slightly towards him. The background is a plain, light-colored wall.



六つの感覚器官は、何をつかまえるのか。今度は感覚器官がつかまえる相手は何なんだということになるわけです。

世間一般では「五感」と言つて五つしか感覚器官がないと言つますが、般若心経では眼、耳、鼻、舌、身、意と六つあると言つていますね。この六番目の感覚器官「意」というのは仏教独特のもので、心そのものを指します。眼は外の色とか形を捉えますが、六番目の意は何を捉えるかという

を仏教用語で「身」と言います。世間一般では「五感」と言つて五つしか感覚器官がないと言つますが、般若心経では眼、耳、鼻、舌、身、意と六つあると言つていますね。この六番目の感覚器官「意」というのは仏教独特のもので、心そのものを指します。眼

は外の色とか形を捉えますが、六番目の意は何を捉えるかといふのを捉えるのが意。例えつかますが、般若心経では眼、耳、鼻、舌、身、意と六つあると言つていますね。この六番目の感覚器官「意」というのは仏教独特のもので、心そのものを指します。眼

は外の色とか形を捉えますが、六番目の意は何を捉えるかといふのを捉えるのが意。例えつかますが、般若心経では眼、耳、鼻、舌、身、意と六つあると言つていますね。この六番目の感覚器官「意」というのは仏教独特のもので、心そのものを指します。眼



昔のインド人は光とかそういうのは知らなかつたから、目がつかまえるのは色と形なのです。この色と形を合わせて、仏教用語で「色」という字で書きます。耳の対象は音ですけれども、仏教用語では音と言わずに、これを「声」という漢字で表します。声というのはボイスという意味ではなくてサウンドなんですね。

鼻の対象が「香」、舌の対象は「味」、次が身。身は触覚でしたね。触覚の対象は「触」という漢字を書きまして、これが痛さとか熱さとかの「触感」です。

意の対象は何か。昨日会つた人の顔とか、仏のありがたさとか、そういう抽象的なものをいっぱいつかますが、何とも言い表し

ます。それから色、声、香、味、触、法と、この六つがつかまえる認識器官と、それによってつかまえられる世界を表しているわけです。

そうすると、先ほどのタコで言いますと、六本の感覚器官(眼、耳、鼻、舌、身、意)のそれぞれから六種類の情報(色、声、香、味、触、法)が入つて来ると、タコの頭である心にそれが映ります。

たとえば、映画は実物をカメラで撮つて映写機でスクリーンに映像を映しますが、スクリーンに映つているものは実物と似ているけれども全く同じものではないですね。

それと同じように、私たちの六根、「六根清浄」の六根ですが、この六根を通して流れ來た情報がここに映つている、これを「識」といいます。

眼という感覚器官を通つて來た識は何と呼べばいいかというと、

眼を通つて出てきた識だから、眼識と呼ぶわけです。眼、耳、鼻、舌、身、意、それぞれのラインから入つて來たものは眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識と呼ばれます。

我々は意識を日常用語として使つていますが、意識という仏教用語の本来の意味は、眼、耳、鼻、舌、身、意という認識器官が捉えた情報が映し出している心の在り方が意識なのです。

『般若心経』は眼識から意識まで「乃至」と言つて飛ばしてしまいますが、眼、耳、鼻、舌、身、意という六種類の識があるというわけです。

★六根 眼、耳、鼻、舌、身(触覚器官)、意

★六境 色、声、香、味、触(触感)、法

★六識 眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識

ところで、大切な原則があります。六本のラインから情報が入つてきて六識ができますけれども、同じ時間には一本のラインし

か働かない。一本のラインから同時に情報が入ってきて、その二つ情報が一遍にタコの頭に映るということはないのです。

今、私が喋っているのを皆さんお聞きになつて、私の顔を見ながら私の話を聞いているのだから、見ながら聞いてるじやないかと思われるかもしませんが、実はそれは錯覚なんです。どうして錯覚かというと、見るラインと聞くラインは物凄いスピードで交互に働いているのです。我々はそのスピードの違いが分からぬので、見ながら聞いているといふに思つているけれども、これは全部時間がずれているんだと。

そのスピードは瞬きの二十分の一なんだそうです。この時間の単位のことを、仏教では「刹那」と言います。

皆さんは映画を御覧になりますが、映画は止まつて写真のコマが送られて行つて、スクリーンには動いているものが写つてゐるよう見えます。それは一コマずつ

止まつた写真が映つてゐるわけですが、一秒間に二十四コマ流すと、自然な動きがスクリーンに映つて見える。

皆さんが今、私の顔を見ながら聞いていると思う（錯覚する）のは、これはある程度気が散つているからです。これをもつと集中していくつて、例えば、私の話に熱中していくと、だんだん私の顔は見えなくなつてくるはずです。

逆に、私の顔に見惚れて、私の顔ばかり見ているようになると、もう私の声は耳から入らなくなつてくる。先にお話したタコの頭のたとえで言いますと、六色にピカピカ光るLED電球のよくなものだと思つたらいい。ところが何かに集中していきますと、同じ色の電球の光が続くようになります。ずっと赤の電球が点いていて、時々、青の電球がピカリと点くと

禅定に入る、というのは、そのラインを一本に絞る。他のラインが入らなくなつてくるようにすると、これを仏教語で「禅定」と言います。

眼、耳、鼻、舌、身、意の内の意のライン一本に絞つて、他のラインが働かなくなつたとき、これが禅定に入つているという状態なわけです。

スリランカや東南アジアの教団では、禅定のトレーニングの方法がありまして、それを自分の前に置きました。朝から晩までその青い円盤だけを見る。そうするとほかの色が入らないようにして青だけ見てしますから、自分の視覚が青だけになります。朝から晩まで青になります。朝から晩まで青い円盤を見ているから、青いものを見る青ラインだけが働くようになる。このように他のラインを止め、青を見るというライン

精神を集中する、瞑想する、

禅定



だけに集中する訓練をする。

次の段階では、青い円盤を取り除いて、今度は今まで見ていた青の円盤がそこにあると想定す

る。これは何をしているかというと、見るというライン一本で練習

したので、そのラインを今度は意へと変えているわけです。眼のラインで練習して、それを意のラインへ持つていくことで集中のト



レーニングをする。

因みに、死体を見るという修行があります。現在では、亡くなつた人はみな荼毘に付していまが、昔のインドでは貧しい人達は、家族が亡くなるとその死体を

森へ持つて行つて、死体捨て場へ

ポイと置いてくるんです。あとは獣が食い荒らしたりして、自然がすべて処理してくれるというお葬式の方法があつたわけです。だから、どこでも森の中には必ず死体捨て場というのがあつたんです。

味合いなわけですね。

森へ持つて行つて、死体捨て場へ

お坊さんはその死体捨て場へ出かけて行つて、死体の前に座つて死体をじつと見る。人の遺体というのは滅多にないものなので、我々はそれに目が引かれるのですね。自分の眼のはたらきを死体を見るということに集中する。そうやって眼のラインの集中力を高めていく。ある程度それを見たら自分のお寺へ走つて帰つて、今度は部屋へ入つて、それまで見てきた死体を思い浮かべる。

動を起こすようになつてくる。

御飯を食べようとか、何かし

ると、男性のタコの足の中には執着とか、あるいは色欲のようなものとか、それに付随して、この人とお付き合いするためにはどうしたらいいだろうかというような悪巧みとか、色々なことが心に浮かんでくるわけです。その様々な心の働きが、最終的にどこへ集約して行くのかと言いますと、そのタコの足の中に「思」という漢字を書く豆電球がある。これは何かというと意志です。

御飯を食べようとか、何かし

ようと意志作用は普通にも起りますから、これが煩惱のわけではありませんが、これも意志がやつてゐる。でもこの場合には、煩惱が働きかけてそうしようとしているのではなく、人間として当たり前の生理作用として、ただ歩くことによるだけです。

それに対する、「嘘をついてあいつを貶めてやろう」という心が働くと、それによつて私は嘘をつくことになる。「思」そのものは、唯の道具ですが、意志作用を強く働かせるものが煩惱なのです。

例えば、「思」というのは包丁みたいなものです。包丁といふのは憎しみを持つた人が持てば人殺しの道具になるし、お母さんが子どもに美味しい物を食べさせてあげたいという情愛を持てば、その包丁で素敵なお料理ができる。包丁それ自体には善し悪しはありません。その包丁を使う動機が良いか悪いかによつて、包丁はどうとで

この間、タイのお坊さんに訊いたら、彼はときどき病院の遺体安置室へ入れてもらうのだそうです。病院の人も、これはお坊さんの修行だと分かっているから入れてくれる。これが瞑想というものの、禅定というものの分析的な意

もなるわけです。

煩惱を消す

仏教の一番肝心なことは、「どうやつたら煩惱を消せるか」ということですね。

これはお釈迦様の伝記を考えるとよく分かるのですが、お釈迦様は出家されて森の中へ入り、始めに苦行をするのです。皆さん御存知のように、断食とか、川の中へ潜つて息を止めていたとか、とにかく自分の身体をいじめて痛めつけて、辛い思いをするという修行をなさった。先ほど私が説明してきた心のシステムを考えた場合、身体が辛い目に遭うということと、タコの足になつている煩惱が消えるということは、全然つながつてこないのです。

痛さとか冷たさと同じ部類で、ひもじきがあります。それをお慢しても、煩惱は全然消えないです。お釈迦様はこういった苦行を六年間やって、なんの役にも立たんわということで苦行を捨てた。そう

して、我々が四十何本のタコの足の煩惱を消すにはどうしたらいいかと考えた。これは心に付着した要素なんだから、その要素を消す

ためには自分の心を鍛えて、悪い豆電球が点かずに善い豆電球が点くようなトレーニングを繰り返しを行うことによって、次第にその悪い要素の豆電球の点く頻度が弱くなつていくはずだらうと。

例えれば、美味しそうなものを見ると、それに対して「欲しい」という思いが起つてきたんだけれども、同じものを見た同じ状態であつても、「欲しい」という強い欲望が起つらないように自分でトレーニングをしていくと、次第に欲望が起らなくなつてくるものが消えるということは、全然つながつてこないのです。

一番分かりやすい例をあげれば、自転車に乗れる人が自転車に乗れない人にいくら説明しても、乘れているときの気持ちは分からぬことと同じです。自転車に乗るトレーニングの繰り返しで自転車に乗ることができるようになつ

ていくわけですけれども、そのトレーニングの一々を言葉で説明するには非常に難しいわけなのです。

それと同じように、我々が煩惱を消すということについても、身体の痛さ・冷たさ・辛さを我慢することで煩惱は消えません。あくまで自分の心の中でその煩惱が消えるように自分の心を「制御する」、コントロールする。自分の心をコントロールするために絶対に必要なのが禅定です。何故かと言ふと、目や耳からは常に引っ切れども、同じものを見た同じ状態にストレスを与えない状態にして禅定に入られた。これは六根の感覚で言うと、余計な所から余計な刺激が入つてきても、心がそちらへ向かないようにする、一番カームな状態にしておく。

現代の我々だって、映画を見ながら、テレビを見ながら、お菓子を食べながら、隣の人とお話をしながら、自分の心の中をコントロールして悪い煩惱が起こらないようにしようしようなんて、そんなことができるのはありませんね。

頓悟と漸悟

禅宗なんかはよく「頓悟」ということを言うのですけれども、本来の仏教に「頓悟」という言葉はありません。お釈迦様でさえも、あれだけの年数をかけて、じつくりと悟りを開いていった。お釈迦様の弟子達も皆そうだつたので

自分の外の世界から入つてくる情報を全部シャットアウトして、常に自分の認識の対象が自分が悪いという一本だけのラインにし

て、常に自分の心に向いている時に、私はこの心をどうしようかということが初めて可能になるのですから、禅定なくして煩惱を消すなんていうことはあり得ない話です。お釈迦

あつて、全く何も準備のない人が「何かのきっかけで突然悟りました」という話は一つもありません。すべて「漸悟」です。

だから頓悟と言つても、その前段階があるんですよ。それは何故かと言うと、人の悟りへの資質に違いがあるわけがない。生命体はみな一緒です。悟る道が、ある人はこれで、ある人はこうで、なんてことがあるわけがない。多少の気質の違いはあるにしても、一瞬で悟るということはお釈迦様は決して言つていません。禪宗の人には都合が悪いのかもしれません、私はお釈迦様の弟子ですから、そういう申し上げておきます。

「頓悟」と思われているのも、それ至るまでの何らかの修練を自分で気が付かないことかもしれません。

例えば、人生でものすごく辛い

目に遭うとか、厳しい道を辿つて強い悲しみを感じて来た人といふのは、その道そのものがもう修行の一環になっています。「座

る」という修行とは関係ないままでも、心が集中した鍛錬をさまざまな場所で人は積むわけです。その最終的な結論が悟りであつたとしたならば、実は自分でも気が付かないところに悟りの土台があつたと考えるべきなのです。それが頓悟の本当の意味だらうと私は思う。

昔の修行者は自分のタコの足にどのような煩惱があるのだろうかということを、自分で修行しながら考えていつたわけです。

一番最初は、貪、瞋、癡。これは三毒と呼ばれる三つの毒という

もので、「貪」は言うまでもなく執着であります。次の「瞋」とい

うのは、憎しみ、怒りのことをこ

の漢字で書きます。三番目の「癡」が煩惱の親分であります。大親分なんですね。癡のことを別名「無明」と言います。

「明」というのは「知恵」という意味なので、無明といふのは知恵がないということで、別名「癡」ですね。この知恵というのは、知

識だと知能だととは全然関係がないので、世の中を正しく理解し見ていく能力がない、ということです。

我が強いと、自分を中心にして中が動いている、世の中は私のために動くはずだというふうに思うのです。

例えば、災害が来るか来ないかというときに、災害が来るか来ないかのパーセント、確率は人間が決めるものではなくて自然が決めるもののはずです。

ところが、津波は来るでしょうに、来ないでしようかと言われたときに、我々はどう考えるか。今まで、津波が来てしまふと都合が悪いのでは、津波は来てほしくないと願う。津波が来てほしくないという願いが、いつしか津波は来ないであろうという、勝手な確信に変わつていくわけです。自分に都合のよいことが起こるのであり、都合の悪いことはおそらく起こらないだろうという思いを持つようになる。

そして津波は来ないだろう、と

臨濟宗各派
御荘嚴袈裟衣調進所

加藤法衣店

〒453-0047 名古屋市中村区元中村町1丁目72番地
電話 052 (471) 1496
FAX 052 (471) 1681

精進料理・慶事・仏事御膳料理

御料理・仕出し 紀文

岐阜県山県市青波262-1
本店(代)TEL.(0581)52-1090
FAX.(0581)52-3020
岐阜サービスコール ☎ 0120-371605

判断するのですが、その判断は間違っています。その間違った判断に乗つかって、自分で生活のベースを作っていくときに何が起こるかというと、それと全く関係ない自然の驚異がそこへ襲いかかってくるわけです。

東日本大震災で津波が起こったことを思い返してみましょう。津波が起る何年も前から、江戸時代に津波が起った記録がありました等、と東京電力へも報告書が行っていたんです。でも東京電力の人は、ここ数年は大丈夫だろうと考えて、ちゃんとした対策を怠っていた。過去、津波が来た記録を精査して、原発よりも上の所に緊急の電源を保持しておく設備をしておこうという考え方もあつたのですが、それは見事に無視されました。

これが自分中心の世界であります。同じように、私たち一人一人が毎日暮らしている中でも、物事を自分中心に考えているわけなのですね。

煩惱は心所に含まれる

煩惱は「心所」に含まれます。

この心所が豆電球のことです。タコの例で言いますと、真ん中の頭を「心」(こころ)、その心に付随する様々な要素を「心所」と呼びます。ですから煩惱は全て心所に含まれます。

貪、瞋、癡。癡の無明が親分で、これが先ほど言いました強い自我を中心とした誤った世界観ですね。そして「慢」ですね。それから「疑」、これは正しいことに対するイチャモンをつけるような、そういう考え方。それから「五見」というのがあります。これは見解。物事を正しく見ることのできるかということに関して、いつまでもいまど同じものが生まれ変わつた後も私として存在します、

ですから、「有身見」は無我なのに我があると考える間違った考え方であります。「辯執見」はその我と見なしたものを見ると断見と見る見解です。死んだらどうなるかということに関して、いつまでもいまど同じものが生まれ変わつた後も私として存在します、

というのが「常見」です。いわれる我が死ぬと消えます、というのが「断見」です。どちらも間違います。何故ならば、「常見」も「断見」も、我があるという前提での見解であるからです。

五見

(有身見、辯執見、邪見、見取、戒禁取)

この五見のうちの有身見こそが、インド古来のアートマン、我々

の心に魂として実体があると考える。その考えが有身見で、これは間違いなのです。

モーダム

もともと仏教が否定したバーモン教では、我々の心の中にアーテマンと呼ばれる実体があつて、それは死のうがどうしようが、必ず我として永遠に存在すると考えていたのですが、それがこの仏教におきましては架空の錯覚であると考える。それを「諸法無我」というのです。

御法衣・莊嚴具調達

臨濟宗各本山御用達

大黒屋

株式会社



神田法衣店

〒603-8207 京都市北区紫竹牛若町29番地2
電話 京都 (075) 493-3507番(代)
FAX (075) 493-5098番

それから「邪見」というのは、存在しないものを存在すると考える見解であります。ありもしないものがあると見る見解が、誤った世界觀をつくり出すというわけです。

「戒禁取」というものは、因でないもの、道でないものを因・道と見る見解。例えばお札や呪文で我々の人生がよくなると考える場合に、お札、呪文、そういういたものが因でないのに因と考えてその道に入り込んでしまうことです。

この五見は、我々が間違った生き方を選択してしまう原因です。それも全部無明に集約されます。煩惱は全部、無明へと最終的には集約していつて、無明が全部消えた人は、煩惱が全部消えた人だということになるわけです。

これが「十二支縁起」で、無明

から始まって、「無明、行、識、名色、六処、触、受、愛、取、有、生、老死」となる。十二支縁起の一番最初が無明で始まっているのは、そういう意味を持つていています。

我々の人生がよくなると考える場合に、お札、呪文、そういういたものが因でないのに因と考えてその道に入り込んでしまうことです。

「戒禁取」というものは、因でないものを因・道と見る見解。例えばお札や呪文で

我々の人生がよくなると考える場合に、お札、呪文、そういういたものが因でないのに因と考えてその道に入り込んでしまうことです。

貪、瞋、慢

貪、瞋、慢。これが一番の大もとなので、これが消えれば煩惱は全部消えるんです。言うなれば、大親分が無明で親分衆が貪、瞋、慢なんですね。これがしつこく残る。慢は残りますわね。どう考えても、俺は偉いという考え方。偉いだけではなく、俺はあいつと同じぐらいというのも慢だという。つまり、自分の立場と現実とは違う形で想定するのは全部慢。また、「卑慢」というのがありますて、実際よりも低く想定するのも慢だと言うのです。

俺は偉いという考え方。偉いだけではなく、俺はあいつと同じぐらいというのも慢だという。つまり、自分の立場と現実とは違う形で想定するのは全部慢。また、「卑慢」というのがありますて、実際よりも低く想定するのも慢だと言うのです。

貪、瞋、慢。これが一番の大もとなので、これが消えれば煩惱は全部消えるんです。言うなれば、大親分が無明で親分衆が貪、瞋、慢なんですね。これがしつこく残る。慢は残りますわね。どう考えても、俺は偉いという考え方。偉いだけではなく、俺はあいつと同じぐらいというのも慢だという。つまり、自分の立場と現実とは違う形で想定するのは全部慢。また、「卑慢」というのがありますて、実際よりも低く想定するのも慢だと言うのです。

「ああ、間違つてた」といつて気が付いた瞬間に消えるのですが、貪、瞋、慢というのは、いくら人から言わっても、どう考へても消えません。実は煩惱の本質はそこにあるので、煩惱の消し方は、理屈で消す煩惱と修練で消す煩惱との二つあります。

人は錯覚して生きている

煩惱があるために我々は間違つた世界觀を持ちますが、その間違つた世界觀を正さねばならないという仏教の基本的な教えが、「諸行無常、諸法無我、一切皆苦、涅槃寂靜」、この四法印と呼ばれます。これは仏教で一番大切な旗印であります。

煩惱を断つための手段は、ひたすらに「智慧」なのです。煩惱は段階を追つて次第に減していくきます。煩惱には、理屈が分かれば消えるものもあるが、多くの煩惱は心を修練して初めて消えます。これは理屈で説明されると、

智慧

ひたすらに「智慧」なのです。煩惱を正しく是正したときに、何かが見えてくる正しい世の中の在り方を四つのフレーズで語るもののが「四法印」です。

「諸行無常」とは何か。諸行は常だと我々は錯覚しているんだといふことです。諸行は無常なのに常

ほんとうの「安心」は、ここにあります。

信頼される安心を、社会へ。
SECOM

セコム
Security by
SECOM ホームセキュリティ

お寺のセキュリティもセコムにご用命ください。

セコム株式会社 TEL. 0120-025756 (24時間・年中無休)

だと錯覚するから執着するのです。

諸行無常の無常を歌った歌が

「いろは歌」でありまして、「いろ

はにほへとちりぬるを、わかよた

れそつねならむ」。この世の中に

常なるものなんかないじやないか

ということで、これでもう諸行無

常を言つてゐるわけです。「うゐ

のおくやまけふこえてあさきゆめ

みしゑひもせす」。「うゐ」という

のは「むゐ」の反対であります、

「むゐ」というのは、無常の世界

の物事を全部含わせて「むゐ」と

呼びます。

無常の世界を超えたところに悟りがあるということで、うゐのおくやまを越えるんだということで、あれは仏道修行の歌なんですね。

「諸法無我」は、諸法の中に我が実在すると錯覚する。諸法といふのは、この世の全存在という意味です。この法は教えという意味ではないです。宇宙のありとあらゆるものどこを探しても、これが私ですなんてものはどこにも見つかりません。私と思っている錯

覚はいろんな要素が集まつて、いまこの瞬間に働いているこの作用

が私なのであって、次の瞬間に別

の形に作用が変われば、私は次の

私になつてゐるんだ、と。これを

キリスト教やイスラム教へ持つて

行くと、みんな腰を抜かすわけで、

魂がないと言つてゐるわけですか

ら。イスラム教で私は魂を信じて

いませんと言つと、極悪人だと思

われる。

つまり魂がないということは、この人は悪魔だと。その人にこの仏教の諸法無我を説明しようがな

いんです。でもこれは仏教の旗印

ですから、魂、靈魂、その他、私

を構成してゐる絶対的な普遍の要

素はどこにもない。

「諸行無常」と「諸法無我」を合わせるとどうなるかといふと、この世は苦の塊になります。なぜならば、私たちは諸行が常で諸法に我があると考えてゐるのに、それは絶対に実現もできなければか

ませんから、常に自分の思いがかなわないという苦しみを受け続けることになるんですね。

個人レベルで言いますと、いつ

までも生き続けたい、健康でありたいと願うこの思ひが、病気や老

化によつて次々に崩れ去つていく

ということですから、これは一秒

一秒が全部苦しみだということ

で、必然的に「一切皆苦」ということになるのです。

瞬間的に目の前の楽しみを優先

し、本質的な苦しみを後回しにする

ということで、私たちは辛うじ

て自分を保つてゐるわけです。そ

の苦しみをずつと忘れて居られる

ならば、その人は幸せに一生を終

わるのですが、そうはいかない。

やがてその苦しみの方が強くなつ

てくるので、一瞬の楽しみ喜びで

は覆いきれなくなつた時に、その

人は仏教を求めるようになる。だ

から佛教は若い人には必要ありま

せん。でも、若い人もやがて年を

とる、病気になる、そうなつてく

ると、例えば有馬温泉一泊旅行の

各大本山御用達

たち兵
老舗

草木兵助法衣店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

京都(075) TEL 221-0934 (代表)

FAX 241-0773

楽しみよりも、病氣に苦しんでいる自分の姿のほうが重くなつてきで、仏教に目を向ける契機になる。

「涅槃寂静」とは何か。欲望の

充足こそが最終目標だと錯覚して

いるのが間違いで、それを正したもののが涅槃寂静であります。ここ

で一番大事なのは、涅槃という言葉が欲望の充足とは全く反対方向

を向いているということです。欲

望の無くなる状態の実現ですか

ら、「何かが手に入つて嬉しいな

ではなく、「何も手に入れたいと

思わなくなつた、嬉しいな」とい

うのが涅槃寂静です。

この四法印というのは、我々の錯覚を正したらこうなるんだから、これを目指せ、という旗印になるわけですね。

心は見通すことがとても難しく、極めて微妙で、わがまま放題である。賢い人は心を防御しなければならない。

防御された心は、安樂をもたらす。

心は見通すことがとても難しく、極めて微妙で、わがまま放題である。賢い人は心を防御しなければならない。

防御された心は、安樂をもたらす。

心と関連する経文を二つご紹介して、本日の講義終了と致します。

心は、とらえ難く、軽薄で、

わがまま放題である。

その心を制御することは善いことだ。

制御された心は、安樂をもたらす。

佐々木 閑氏 略歴 (ささき しずか)

花園大学文学部仏教学科教授。文学

博士。

一九五六年福井県生まれ。一九七九年、京都大学工学部工業化学科卒業。一九八二年、京都大学文学部哲学科仏

教学専攻卒業。

一九八七年、京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。一九八八年九月、米国カリフォルニア大学バークレー校留学を経て、一九九〇年、花園

大学文学部専任講師、一九九二年、花園大学文学部助教授、二〇〇二年、花

園大学文学部助教授、二〇〇四年、花園大学文学部教授(現在に至る)

専門は仏教哲学、古代インド仏教

学、仏教史。

著書:『出家とはなにか』『インド仏教変移論』(ともに大蔵出版)、『日々是修行』(ちくま新書)、『「律」に学ぶ生き方の智慧』(新潮選書)



フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祢504-7 www.nushiya.net

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の塗替え、修復
お見積もり無料 ご一報ください

句経の中から今日のテーマの煩

『法句經』は数多ある經典の中で最も古いものです。東南アジアからスリランカ、日本、チベット、すべての佛教世界の中で、誰もが皆、最初の心掛けとして学ぶのが『法句經』です。最後に、この『法

比丘たちよ、その(無明という)汚れを捨て去つて、汚れのない者となれ。



令和二年度 研修会ビデオの御案内

薪流会研修部

日本全国が未だコロナウィルス禍にあることを考慮し、感染拡大防止のため昨年秋の研修会は非公開で開催致しました。

本会報に掲載致しました研修会の映像は、インターネットの **YouTube** で公開しておりますので、会員各位には是非とも御視聴頂きたく御願い申し上げます。

御視聴に当たっては、次の通り操作して下さい。

● パソコンの場合

- 1) インターネットへ接続し、**YouTube** のサイトへ、アクセス。
- 2) **YouTube** で「薪流会」を検索。
- 3) 「2020 研修会：佐々木閑氏「煩惱とは何か」（前半）」を選択し、視聴。
- 4) 同タイトル（後半）を選択し、視聴。

● スマートフォンの場合

YouTube アプリを起動し、パソコンと同様の操作で視聴できます。

研修会映像は、前半・後半と二本ございますので、御注意下さい。

視聴に当たっては、**YouTube** 概要欄の URL から研修会レジュメ（PDF）をダウンロードし、参考資料として頂けましたら幸甚です。

なお、同様に薪流会二十周年記念講演会での小出裕章氏・佐高信氏の映像も **YouTube** で御覧になれますので、あわせて御案内申し上げます。

御法衣・莊嚴具・稚児貸衣裳

△山田八郎法衣店

〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

隨想ことば考

藥師寺 良晋

思想を盛る器

柴山全慶著『禪林句集』の序に

での香語、みな言葉に依つて人々へ伝えている。

現代人のことば使い

言葉は思想を盛る器である。
謂うに歴史の推移は思想生活の
推移であり、思想生活の変遷は、
言語表現に歴史を織り成して行く、
言語が歴史の流れと共に変化を余
儀なくさるる経緯である。

禅は「不立文字」、「以心伝心」を標榜するが、初祖達磨大師以来、三国伝灯の祖師にはそれぞれの語録があり、言葉によつてその教えを伝えてきた。それは、現代の吾々においても同じであろう。法事での法話、葬儀での引導法語、斎会

「ベーション」などと喧伝するのなら、総合的且つ俯瞰的な観点から、「米国」「英國」等という呼称もそろそろ見直されて、語法の改革も図つて頂きたいものだ。コロナ禍における言葉使いで

気になつたのは、カタカナ言葉の学術用語であつた。「パンデミック」、「クラスター」、「ロツクダウン」と耳馴染みのない言葉がマスコミを中心に何度も繰り返された、これらカタカナ言葉を駆使する側の人々は、専門用語に初めて触れる人々に思いを致すことがあるのだろうかとさえ思つてしまふのだった。

お葬式の「？」に 答えます



総合式場 ブライトホール

北ブライトホール	[堀川紫明]	山科ブライトホール	[五条外環]
中央ブライトホール	[五条東山]	伏見ブライトホール	[丹波橋新堀川]
南ブライトホール	[油小路八条]	向島宇治ブライトホール	[宇治檜島]
西ブライトホール	[五条西大路]	大津ブライトホール	[大津駅南]

家族葬専用 別邸

別邸 向島宇治 [宇治槇島] 別邸 大津 [大津駅南]

答える葬儀社

谷 益 杜

本社 / 京都市中京区烏丸通六角上ル

0120-004-200 公益社 京都 検索

検索

源』(角川書店)、仏教語については『仏教学辞典』(法藏館)を参考した。望月信享編『佛教大辞典』などや駒沢大学編『禅学大辞典』などは、学生には高嶺の花だったので、専ら図書館で引いたものだ。

一九九一年、花園大学での恩師古賀英彦先生から『禅語辞典』(思文閣)を御恵送頂いた。昨今、禅語を調べるときには常に本書のお世話になつてている。

私が学生時代のある日、古賀先生の研究室へお邪魔すると、「今度、禅語の辞典を手掛けることになつてね。お目付役は入矢義高先生だ。」と仰って、草稿の一枚を見た。その後、先生は「禅語録を読むための、基本語彙初稿」(一九八五、『禅学研究』六四号)、「禅語録を読むための基本語彙(続)」(一九八七、『禅学研究』六六号)を発表され、『禅語辞典』へと結実していくたといふわけである。

麻三斤

『禅語辞典』では、従来の伝

統的解釈とは異なる解説が随所に見られる。一例を挙げれば、有名な禅語「麻三斤」。周知のように、この語は『無門関』や『碧巖録』に引く次の公案に見える。

僧、洞山に問う、「如何なるか是れ仏」。山云く、「麻三斤」。

従来の解釈では、「麻三斤」の「麻」は胡麻のことであり、「三斤」はその量や重さを意味するといつたり、「麻三斤」の「三斤」は仮の数字であつて、五斤でも八斤でもよいのだ、とも言われてきた。本書『禅語辞典』ではどうか。

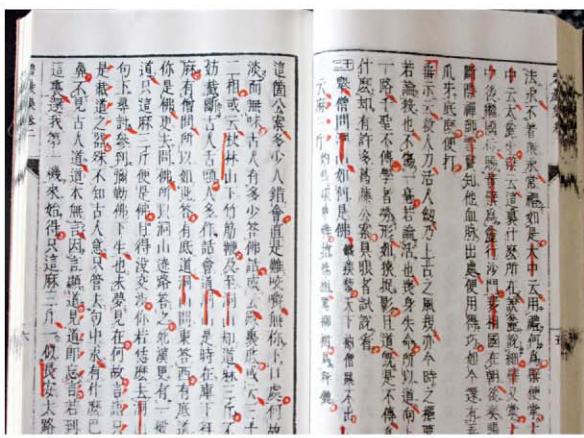
「麻三斤」は「衣一着分が作れる麻糸」とある。この語については、入矢義高先生の「麻三斤」という論文(岩波現代文庫『自己と超越』所収)に詳しい。

禅語辞典の刊行以後出版された、有馬頼底監修『茶席の禅語大辞典』(淡交社)や西村恵信訳注『無門関』(岩波文庫)の解説も、本書の記述に従つているのはいうまでもない。冒頭に引いた全慶老師の言葉「言語が歴史の流れと共に変化を余儀

なくする経緯」とは、この辺りを指しているのではなかろうか。

古賀先生は平成三十年十二月十九日、数え年八十三歳で逝去された。私が先生の訃報を知ったのは、翌年二月、薪流会前総裁にして方広寺派管長大隱窟老大師の通夜を終えて、自坊に帰つた深夜のことだつた。突然の訃報に茫然自失、その夜は目が冴えたまま朝を迎えた。

『禅語辞典』を開く度、今はお淨土に居する先生の学恩を思わずには居られない。



寺院仏像仏具 製造 修理 販売

天眞堂中央社寺工藝社

令和2年度会計決算報告

自令和2年1月1日～至令和2年12月31日

1. 一般会計

収入 2,299,264円
 支出 2,299,264円
 残高 0円

収入

(単位・円)

項目	予算	決算	比較	備考	前年度決算額
賛助金	400,000	330,000	▲70,000	正副総裁・顧問・参与	340,000
会費	350,000	206,000	▲144,000	役員・会員	245,000
事業収入	200,000	99,640	▲100,360	色紙収益	21,877
広告収入	400,000	360,000	▲40,000	会報広告掲載料	630,000
雑収入	10,000	230,002	220,002	預金利息・全日仏より活動支援金・浜松支部より	108,917
繰越金	1,073,622	1,073,622	0		1,111,004
合計	2,433,004	2,299,264	▲134,358		2,456,798

支出

(単位・円)

項目	予算	決算	比較	備考	前年度決算額
本部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
浜松支部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
事務費	150,000	152,108	2,108	要覧作成・事務用品他	128,216
通信費	150,000	125,442	▲24,558	郵送料・宅配便他	149,625
会議費	150,000	138,790	▲11,210	会所費他	96,160
文化部	100,000	238,706	138,706	研修会費	231,985
編集部	700,000	544,486	▲155,514	会報編集・発行	673,322
托鉢部	100,000	30	▲99,970	托鉢	3,868
慶弔費	20,000	30,000	10,000	梅林寺弔儀	0
交際費	100,000	0	▲100,000		0
繰越金	863,622	969,702	106,080		1,073,622
合計	2,433,004	2,299,264	▲134,358	次年度へ繰越	2,456,798

2. 活動基金

2,780,000円

(単位・円)

収入	
前年度繰越金	2,680,000
托鉢部より	100,000
合計	2,780,000

会計監査報告

令和2年1月1日より令和2年12月31日の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

令和3年2月1日

監事 毛塚順康



監事 戸崎知則



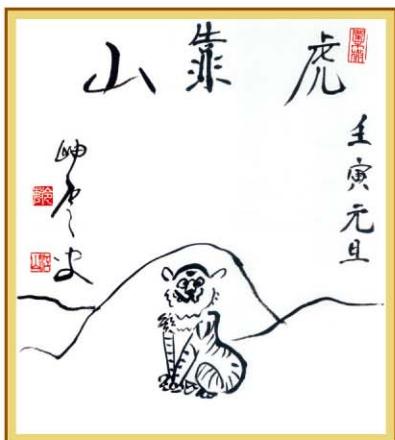
3. 浜松支部決算報告

収入 157,100円
 支出 157,100円
 残高 0円

自令和2年1月1日
至令和2年12月31日

(単位・円)

収入	支出
一般会計より	50,000
繰越金	107,100
	会議費 10,000
	交際費 10,000
	次年度へ繰越 7,100
	本会計へ 130,000
合計	157,100 合計 157,100



令和4年 お正月色紙見本

薪流会のホームページができました。
ぜひご覧ください。
<http://www.shinryukai.jp/>

〒500-9103
岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八
TEL○五七四一五三一五二二〇
FAX○五七四一五三一六九三二

大雄寺

(左記の二カ寺にて受け付けます)

(但し在家の方は十枚単位より
受付致します。)

※寺院の方は五〇枚単位にて御願
い致します。

一枚 三三〇円「送料別・税込」

(但し一般は四三〇円)

正月用色紙を本年も発売致します。
解説書・たとう紙付(折込み道)ご
好評頂いております総裁猊下揮毫の

岫雲軒老大師揮毫色紙
(工芸印刷)

お正月用色紙御案内

徳生寺

〒434-1004

静岡県浜松市浜北区平口五四八

TEL○五三一五八七一一〇〇五

FAX○五三一五八七一一〇〇九

申込期日 令和3年十月二十日〆切
発送 十月末頃

編集後記

『薪流』第三十号をお届け致しま
す。

本号も総裁岫雲軒老大師並びに
佐々木闇先生他関係各位には、御
多忙な中、原稿執筆頂き、誠に有
り難く篠く御礼申し上げます。
「煩惱無尽誓願断」と毎朝唱え
ながらもいつしか「煩惱即菩提」
の口実に、日々を過ごしてはおらぬ
のか? 昨秋の研修会講演録を纏
めながら思いを致したことでした。
コロナ禍にある今こそ、四弘誓
願と上求菩提下化衆生の精神を
胸に刻みたいものです。 閑話休題、
一人一人がどうあるべきか、何をなすべきかが問われ
ているように思う今日この頃であります。

(良晋記)

“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



メモリアルアートの大野屋

創業 昭和14年

お墓・お葬式・お仏壇のこと
何でもご相談ください

通話無料 携帯からもOK

0120-02-8888

営業時間／9:00から17:00(年中無休)

本社	042-897-4111	〒190-0012 東京都立川市曙町2-22-20 立川センタービル9F
関西墓石事業本部	0120-30-7777	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4-1108 大阪駅前第四ビル11F
北大阪エリア	0120-70-0177	〒666-0033 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403
京滋エリア	0120-31-7777	〒600-8234 京都市下京区油小路通塩小路下ル南不動堂町3 大道第一ビル2F-A
阪和エリア	0120-61-3388	〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分851
神戸エリア	0120-35-8805	〒651-1263 兵庫県神戸市北区山田町西下字狼谷3-1
名古屋営業所	0120-44-1888	〒470-0316 愛知県豊田市千鳥町梨ノ木258

●ホームページ：<http://www.ohnoya.co.jp>

●フェイスブック：<https://www.facebook.com/ohnoya.kansai>